

ダイコンを育てる 神戸市立奥の池幼稚園（兵庫県神戸市）

[4歳児]

園から5分ほど離れた畑で、4・5歳児がダイコンを栽培した実践の4歳児の事例 9月10日～12月20日
[5歳児中心の事例は実践事例集 vol. 4の22～23ページ]

畑を見て、「先生、大変や！またジャガイモができてる！」と報告する。5歳児が見てジャガイモではなく野草だったことが分かり、5歳児の提案により、一緒に野草を取る。

<考察>じゃがいもを育てて収穫した体験が印象的に残っているので、畑の草を「じゃがいも」だと思い、喜んで驚いたりしている。野草抜きを一緒にしたことで、「じゃがいも」ではなかったことや、畑にはこうしていろいろな草が生えることを感じたと思われる。

「ダイコンの種まき」では、ダイコンを掘り出すのだと思い、畑に隠れているダイコンを探そうとする。5歳児のモデルがあり、大根の種まきをする。



<考察>「ダイコンの種まき」という言葉からは「種をまく」という活動をイメージできず、「ダイコンを見つける」という興味や好奇心からイメージした行動をしようとするのが分かる。しかし、「種まき」をするモデルや保育者の助言があることで、4歳児なりに活動の意味を感じ、進んで種まきを楽しめることは期待できるので、このような戸惑いは、自分なりに自分の行動を修正して問題を解決する経験になると思われる。

晴天が続き、みんなでダイコンに水やりをする。

- ①砂場からおおきなバケツを取ってくる。満タンに水を入れ、持ってから初めて「重たい！！持てないよ」と泣く。その様子を見ていた5歳児が水を少しずつ減らし、持てる量にしてくれたバケツを持って行く。5歳児に500mlのペットボトルをもらいもっていく。（5歳児は2ℓ入り）
- ②畑に着くと（ダイコンの若葉は瀕死の状態、野草は生き生きしている）4歳児は生き生きとした野草の葉っぱの部分に水を撒く。5歳児に、野草に水をあげてはいけないことや野草に水をかけるとダイコンの分がなくなること教わる。ダイコンを探すが（白いダイコンをイメージしているので）見つからずキョロキョロする。保育者や5歳児にダイコンの葉を指して教えてもらい、水やりをする。

<考察>「たくさん水を持って行きたい」という自分の思いと、「重くて持てない」という思い通りにならない経験をしている時、このように5歳児が問題を解決してくれることで、憧れの思いが「まね」て一緒にやってみようと思いう意欲になっている。そのため、畑で野草ではなくダイコンに水をあげるといった難しい作業でも、教えてもらいながら進める姿に結びついている。

晴天が続き、水を運び水やりをする日が続くが、ダイコンが枯れてしまう。もう一度種まきをする。5歳児が（ダイコンのために始めた）雨水を集める活動の様子を見る。たくさん容器が並んでいるので興味をもち、傘をさして見たり容器に手を入れて水に触れたりする姿がある。数日後、4歳児も容器を持ってきて並べる。風が強くて飛ばされ、置くだけではあまり水がたまらない。（5歳児は雨だれの場所を見ついたり水溜りの水を集めたりする）
【12月にはダイコンの収穫を楽しむことができた。】



<考察>いろいろな容器が並ぶという好奇心が揺さぶられる環境や、雨水を集めるという憧れの5歳児の姿は魅力的で、4歳児なりにまねて楽しむ姿が引き出されている。理由やきっかけなどの説明がなくても、こうして魅力的な活動は4歳児に伝わっている。雨水を集めた意味や集め方を工夫するおもしろさが心に残ることで、今後同様の経験に直面した時、困難を解決しようとする行動が引き出されることを期待できる。

みどころ

4歳児は周囲の状況など様々な情報から判断したり見通しをもったりすることはできないものの、「～したい」という思いや好奇心により、自分なりに考えて活動していて、いろいろな場面で戸惑ったり思い通りにならない葛藤を味わったりしています。この事例のように、5歳児との子ども同士のかかわりで乗り越えた経験は、思いやりのある年下の子どもへのかかわりや、試行錯誤して問題を乗り越える意欲に結びつくことが期待できます。この事例から、子ども同士のかかわりの中で、多くを学んでいることが分かります。